

概要

- 小豆地域のオリーブは面積及び生産量とも全国一に加え、オリーブオイルも国際コンテストにて入賞するなど世界的に評価されている。一方、優良農地での開園はほぼ終了し**条件不利地での新規開園、既存園地の老木化、生産者の高齢化と人手不足、炭疽病対策及び搾油簿の果実処理等**多くの課題が急務。
- このため、普及センターでは、これらの課題を解決するために生産者、加工業者、JA、町行政等に対し、コーディネイターとして活動。**新規生産者確保に向け基礎研修会の開催や園地開設時の指導及び高品質果実の安定生産技術の確立や県オリジナル品種の普及及び環境にやさしい農業実現に向けた取り組みを支援。**
- その結果、**新規及び雇用就農者の確保、県オリジナル品種の普及。加えて、搾油後のオリーブ果実を加えた堆肥の製造方法の確立・提示とその堆肥を活用した循環型農業モデルを提案。**

具体的な成果

1 新規及び雇用就農者の確保

- 栽培基礎講座の実施、オリーブ産業への参入と雇用就農支援。
令和元～5年度の新規及び雇用就農者：34名

2 樹高切下げによる作業性向上に向けた指導

- 樹高切下げが実施された園地
令和元～5年度：46園地

3 香川県オリジナル品種の普及

- 令和2～5年度
香オリ3号：0ha → 2.4ha
香オリ5号：0ha → 2.6ha

4 搾油後のオリーブ果実の有効利用

- 処分が課題となっていた搾油後のオリーブ果実入り
堆肥の製造技術の確立と普及
堆肥製造マニュアルの作成



樹高切下げ要用の実技指導

表 事業を活用した新改植・施設等導入状況

事業内容	令和3年度	令和4年度	令和5年度
新・改植	79a	79a	71a
栽培管理用機械・施設等	・防獣柵13a	・防獣柵10a	・防獣柵21a ・収穫機3台 ・排水施設4a
加工施設等	・採油機3台 ・充填機1台 ・ホッパー3台 ・貯蔵タンク10本 ・ろ過器1台	・充填機2台 ・ホッパー2台 ・貯蔵タンク3本	・新漬け製造用除水機1台

普及指導員の活動

- | | |
|----------|---|
| 令和元年度 | ■ 小豆島オリーブ振興協議会に対し、課題の明確化と解決に向けた活動方針の提案。 |
| 令和元～5年年度 | ■ 栽培基礎講座等の開催 。オリーブ産業への参入・雇用促進活動への支援。 |
| 令和3～5年度 | ■ 講習会に樹高切下げの実施指導を導入。 |
| 令和3年度～ | ■ 新規開園時や園地改良への指導。 |
| 令和4～5年度 | ■ 搾油後のオリーブ果実を用いた 堆肥製造技術の確立とマニュアル作成 。 |

普及指導員だからできたこと

- ・ 生産者と行政機関に加えオリーブ関連企業間のコーディネイターとして活動を行った結果、課題解決に向けた**効率的・効果的な活動が実現**できた。
- ・ 栽培基礎講座や樹高切下げ実技指導に加え、新規開園・改植に対する技術指導により**新規就農・雇用就農の促進や品質・生産性の向上が実現**。
- ・ 処理費用が発生していた搾油後のオリーブ果実の有効利用による**生産コストの低減に加え環境にやさしい農業に向けた指針を示す**ことができた。

オリーブの生産振興～更なる発展に向けて～

活動期間：令和元～5年度

1. 取組の背景

小豆地域のオリーブは、県内面積の約7割、生産量の約8割を占める一大産地で、約20社の加工業者がオイルや化粧品などを製造している。

特にオリーブオイルは、国際コンテストにおいて入賞するなど、世界的にも評価されている。

流通面では、本県唯一のJAを事務局とするオリーブ生産集団(香川県農業協同組合小豆島果樹部会オリーブ班)が組織されており、明瞭な出荷基準のもと、共選・共販体制で、島内の加工業者へ出荷している。

一方、生産面では、島内の優良農地での開園がほぼ終了し、残された園地の多くは、不適な条件を有している。また、既存園地では、老木化や高木化が進行し、作業性や品質、収量が低下している園地が増加している。加えて、炭疽病対策、生産者の高齢化による担い手不足、生産拡大に伴うせん定枝や採油後の果実処理などが問題となりつつあるなど、多くの問題をかかえている。

このため、普及センターでは、生産者、JA、町行政、県研究機関が参画する「小豆島オリーブ振興協議会」で一致団結し、生産拡大を推進するとともに、高品質果実の安定生産技術や県オリジナル品種の普及、環境にやさしい農業実現に向けた取り組み支援を行うこととした。

2. 活動内容（詳細）

1 生産拡大支援

生産者を確保・育成するため、オリーブを始めたい・基礎を学びたい方を町の広報誌等で募集し、基礎研修会の開催を通じて、オリーブ産業への参入や雇用就農を促進した。

永年性作物であることから、植栽前に園地確認に立ち会い、植栽予定地の現地調査を実施し、不適地条件がある場合は、事前に解消するよう指導・助言した。

新規開園や園地改良、その後の規模拡大や6次産業化に向けた加工施設整備などがスムーズに行えるよう経営改善計画の策定支援等を行うとともに、活用できる補助事業等の紹介や説明を行った。

2 高品質安定生産技術の確立・普及

果実の品質を一定レベルに引き上げるため、主要管理時期に講習会を開催し、その年の気象条件に即した注意喚起を行うとともに、毎年「栽培のしおり」の作成・配布をし



樹高切下げの実技指導

た。

また、技術レベルの高い生産者や農業法人を対象に、新たな技術や先進的な機械・施設などを紹介するため、栽培高度化研修会を開催した。

さらに、高齢化に対応するため、講習会において、樹高の切り下げ方法について実演し、作業性の改善を図るよう指導した。



枝吊り＋整枝を行った「香オリ3号」

3 県オリジナル品種の普及・推進

付加価値の高いオンリーワン産地を目指すため、収穫量の減少につながる主要病害「炭疽病」抵抗性品種である県オリジナル品種「香オリ3号」、「香オリ5号」の生産拡大に取り組むとともに、モデル園地を設置し、当該園地での栽培特性を把握した。また、生育状況に応じた栽培管理方法を提案するとともに、新たな知見については講習会等を通じて生産者に周知した。

4 環境にやさしい農業の推進

採油後の果実は、これまで、ブランド「オリーブ牛」の餌として利用してきたが、生産量の増加にともない供給過剰となりつつある。

このため、新たな活用方法として、枝葉チップを堆肥化する既存の方法で、堆肥化が可能か現地試験を実施することとした。

3. 具体的な成果（詳細）

- 1 新規就農または雇用就農者は、過去5年間（令和元年～令和5年度）で34名あった。
- 2 補助事業等を活用し、3年間（令和3年～5年度）で2.3haが新・改植され、面積拡大や園地の若返りが徐々に進んでいる。

表 事業を活用した新改植・施設等導入状況

事業内容	令和3年度	令和4年度	令和5年度
新・改植	79a	79a	71a
栽培管理用機械・施設等	・防獣柵13a	・防獣柵10a	・防獣柵21a ・収穫機3台 ・排水施設4a
加工施設等	・採油機3台 ・充填機1台 ・ホッパー3台 ・貯蔵タンク10本 ・ろ過器1台	・充填機2台 ・ホッパー2台 ・貯蔵タンク3本	・新漬け製造用除水機1台

また、新・改植にあわせて、収穫機などの省力化機械、防獣柵などの品質向上施設の導入も進んだ。高木化し作業性が低下した園地では、計画的な樹高の切り下げ作業が進められ、令和3年～5年度までに46園地で低樹高化が実施された。

- 3 県オリジナル品種の植栽面積は、苗木の配布が始まった令和2年～令和5年度（計画含む）までに、香オリ3号が2.4ha、香オリ5号が2.6haに拡大した。また、令和5年度は、両品種ともに、初出荷を迎えたことから、関係機関・団体と連携した収穫風景のプレスツアー、加工品の販売開始にあわせたプレス・PR試食により、認知度も徐々に高まりつつある。
- 4 採油後のオリーブ果実を、一定量、枝葉チップに混和した堆肥は、枝葉

チップのみのものと比べて、腐熟度に大きな差はなく、6か月で概ね腐熟に達することが確認できた。また、この試験に協力した法人では、試験後も果実入り堆肥の製造を継続するとともに、自らの園地に施用するなど、循環型農業の実現に向けた自主的な取り組みを開始した。

4. 農家等からの評価・コメント（A氏）

県オリジナル品種のモデル園地に指定されたことで、定期的に普及センターや有識者が調査を兼ねて巡回してくれる。その際に、当該園地に即した管理方法について相談できたため、安心して管理作業に従事することができた。また、近隣の生産者からの新品種などの栽培管理方法の質問等について、ある程度の助言や対応ができたことで、地域として安心して栽培できている。

加えて、枝葉チップの堆肥化は従来から実施してきたが、採油後のオリーブ果実を堆肥化は、油分が多くできないものと思っていた。これを機に、引き取りされなかった分については、提供されたマニュアルに沿って堆肥化し園地に還元することで、処分経費の削減と環境にやさしい農業の実践に努めたい。

5. 普及指導員のコメント（香川県小豆農業改良普及センター・副主幹・掛鯛吉洋）

オリーブは、永年性であり、植栽後の改善や移植は困難なことから、適地適作を基本として、土壌条件が悪い場合は、植栽前の園地改良が不可欠である。特に、新規参入者は、入手した農地に安易に植栽し、その結果、栽培管理に手間をかけているにも関わらず、品質・収量が伸び悩んでいる事例も見られる。管内の面積増加にともない、そのような事例が増えることが予想されるため、今後、ますます植栽前の現地確認の重要性が高まると思われる。

6. 現状・今後の展開等

オリーブ栽培面積は、他県でも急速に増加し、各地域でオリーブオイルをブランド化する動きがみられる。このような中、県オリジナル品種を活用したブランド化が図られることは、小豆島のオリーブ産地としてのトップワンの地位を不動のものにするアイテムとして必要不可欠であると感じている。

そこで、県オリジナル品種を含む優良品種への新・改植を推進するため、植栽前に、不適な条件の解消案を提示するとともに、植栽密度や幼木期の整枝・せん定の適正化により、さらなる面積拡大と早期成園化を図る。

また、加工販売に携わる企業と連携協力することが必要不可欠であることから、2次産業部門との一体的な支援体制が構築されるよう関係機関への働きかけを行う。

さらに、オリーブを始めたい方、新規就農者や新規雇用者、技術レベルの高い方などそれぞれのレベルに応じた講習会・研修会を開催し、生産者の確保・育成を図る。